

実施日：年間	
領 域：特別活動	
取組名：心育てプロジェクト～自他の価値の尊重～ (資料「世界で一番すてきなことば」作詞作曲 安達 充)	
対 象：全校生	実施場所：教室、音楽室、体育館
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の良さやがんばりを見つける力を養う。 ・ 仲間のよさやがんばりに気づかせることで、認め合える集団に高め、いじめを許さない風土をつくる。 ・ 友だちに認められることで、自己肯定感を高める。 ・ 歌いながら、自分につけられた名前について考えることで、自分や友だちが大切な意味ある存在であることに気づかせる。 	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <p>○「ほめほめタイム」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の会で今日のペアを確認する。 ・ 帰りの会で時間を確保し、ペアの友だちの良いところを(事実+ほめ言葉)の形式で紙に書く。 ・ 対話をして、ペアの友だちに伝える。 <p>○「心育ち日記」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 終わりの会で、今日1日をふり返る。 ・ 6つの項目の中から書きたいことを選ぶ。 ・ ミニノートにその日ががんばったことや心に残ったことなどを短文で綴る。 ・ 担任が一言ずつコメントを書いて返す。 <p>○「心育てビンゴ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1マスごとにクラス全員の名前が入ったビンゴカードを配る。 ・ テーマに沿って友だちと対話をする。 ・ クラス全員と対話できたら課題達成とする。 <p>○ 歌「世界で一番すてきなことば」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全校集会の校長講話の中で、歌を紹介する。 ・ 朝の会や音楽の時間に歌う。 ・ 音楽会で、保護者にも披露する。 	
ウ 連携先：	
エ 連携にむけての取組	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「心育てビンゴ」は、昨年度から継続している取組であるが、どのクラスでも独自の心育てプロジェクトに取り組むようにしている。 ・ 「世界で一番すてきなことば」を全校生で歌う歌として広め、いろいろな場で歌うことで、自他を大切にする気持ちを育てる。 	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記録されたノートや日記[別紙2] ・ 対話の内容 ・ 会話の様子など 	

キ 成果

- ・ 「ほめほめタイム」では、友だちのがんばりを見つけようとする気持ちが育ってきた。相手のほめ言葉を考えるときに「がんばっていた」「すごい」から「〇〇名人」「△△の心が育っている」など具体的にがんばりを伝えることができるようになってきた。
- ・ 「心育ち日記」では、見過ごしそうな児童のがんばりを教師が把握し、タイムリーに褒めることができた。また、視点を設定することで、友だちの行動にも目を向け、がんばりを見つけ認めることのできる児童が増えた。さらに、児童の日々の様子や小さな変化を担当が把握することで、思いに気づき受け止めることができた。
- ・ 「心育てビンゴ」では、日頃、あまり関わらない者とも話すことによって、子ども同士の距離を縮めることができた。また、最上級生としてのがんばりを友だちに気づいてもらえることで、今後の活動への意欲づけになった。このように、クラス全員と話すことで、自分とは違う考えや思いにも触れることができた。
- ・ 全校生で同じ歌を歌うことによって、低学年から高学年まで改めて自分の「名前」について考え、自分の存在の大切さや保護者のわが子を思う気持ちに触れさせることができた。

ク 課題

- ・ 友だちのよさを見つける時、学年の発達段階にもよるが、表面的な部分だけでなく、内面のよさに気づけるようになればと思う。
- ・ 担任が特別な場面を設定しなくても、日常の生活の中で自然と友だちのよさに気づけるようにさせたい。
- ・ 自分の名前について考えることのできる児童は多かったが、感情により相手に敬称が付けられない場面も見られる。友だちにも自分と同じように名前に重みがあることに気づかせ、相手の存在を大切にしたい呼び方を再度考えさせたい。